

令和6年6月3日発行

栗原普及センターだより

# 「くりはら」

## 157号



### 水稲に関するトピックス

- ・「水稲乾田直播現地検討会」には多くの皆様に出席いただきました。
- ・有望な品種を試験する「優良品種決定調査ほ」の田植えの様子です。職員も田植えを実施し、優良品種候補の品種特性について調査を行います。

新年度の「挨拶」

栗原農業改良普及センター

所長 中條 満

地域経済に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症は「五類感染症」に移行し、経済活動は正常化しつつあるものの、人口減少と高齢化の進行に伴う市場規模縮小や農業従事者の減少が進んでいます。

県では、「第三期みやぎ食と農の県民条例基本計画」に掲げる「豊かな食」、「儲ける農業」、「活力ある農村」の実現に向け、多様な農業人材の確保・育成を進めるほか、需要に応じたみやぎ米の生産・販売や収益性の高い園芸作物等への付け換えなどの施策を展開しているところです。

当普及センターでは、今年度、新たに三つのプロジェクト課題を立ち上げ、地域活性化ビジョン実現に向けた合意形成や加工用たまねぎ直播栽培技術の確立を図るほか、大豆多収穫技術の体系構築による単収向上の取組を重点的に支援してまいります。

今後も、持続可能な栗原地域の農業・農村の実現を図るため、職員一丸となり農業者の皆様の取組を支援してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

## 令和6年度プロジェクト課題

### 課題NO.1 金成有壁地区の活性化ビジョンの実現

金成有壁地区では、農地整備を契機に地域の活性化を図るべく、令和2年に「農村活性化ビジョン」を策定しました。この中で、地元酒造会社と連携し、酒造好適米品種の栽培面積の拡大と独自のブランド酒づくりを軸に、地域内外の人々との交流を深める地域活性化構想や、農業法人の設立を軸とする担い手構想、大区画ほ場整備を推進する基盤整備構想などが示されており、ビジョン実現に向けた推進母体として、令和3年に地域づくり団体である「天水の郷『有壁創生会』」が設立されています。

普及センターでは、「有壁創生会」を対象とし

て、活性化ビジョンの実現を目指し、地元酒造会社との連携強化や地域農業の担い手となる農業法人の設立に向けて支援してまいります。



【金成有壁地区の農地整備構想がある水田】

### 課題NO.2 加工用たまねぎの直播栽培技術の確立による収量確保

令和4年度から「たまねぎ」を地域振興品目に位置付け、新みやぎ農業協同組合など関係機関と一体となり生産振興を図っています。

たまねぎを大規模で作付けする場合、育苗等にコストが掛かるため、作付面積拡大に向けて直播栽培が注目されています。令和5年度には管内において初めて2.5haの直播栽培が取り組まれており、今月には収穫を迎える予定です。

普及センターでは、たまねぎの直播栽培に取り組む2経営体を対象として、栽培面の技術支援や、効率的な作業体系の確立に向けた支援により、作付面積の拡大や収量の増加を目指します。

今年4月には、株式会社ケーエスの御協力の

もと、ドローンによる殺菌剤散布を実施し、慣行作業と比較した省力化を実証しました。引き続き直播栽培技術の確立に向けて、関係機関と連携して支援していきます。



【ドローンによる防除の実証】

### 課題NO.3 土地利用型経営体の大豆多収穫技術の体系構築による単収の向上

若柳地区の営農組合と志波姫地区の個別経営体を対象とし、令和6年度から2年間、大豆の増収を目指します。営農組合ではミヤギシロメ、個別経営体ではタチナガハを栽培していますが、難防除雑草の発生などの課題を抱えています。

令和6年度は「大豆栽培チェックリスト」を作成し、精度の高い管理作業と効果的な雑草防除の方法を理解し、自ら作業を実践できることを目指します。また、各ほ場の土壌条件や雑草の発生状況を記録した「大豆栽培支援マップ」を作成し、ほ場ごとの条件に合った栽培管理作業の組立てを行います。併せて、水稻と大豆栽培での作業競合の改善による適期作業の実施に

より、大豆の収量・品質の高位安定化を目指し、支援を行ってまいります。



【中耕・培土作業開始前の機械の調整】  
(令和5年度若柳地区の農事組合法人)

## ズッキーニを作ってみませんか！

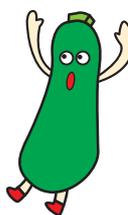
### ◎ズッキーニってどんな野菜？

- ・ウリ科カボチャ属 原産地：北アメリカ
- ・生育適温は18℃～23℃
- ・食品として、βカロテン、ビタミンC、カリウムを多く含みます。
- ・1株から15～20本程度収穫が可能です。（露地春まき栽培）



### ◎栗っこズッキーニについて

- ・栗原市におけるズッキーニ栽培は、平成27年ごろから始まりました。
- ・現在、JA新みやぎ栗っこズッキーニ部会が設立され、栗原市内では45名により、8.4ha栽培が行われており、宮城県内一の産地として定着しています。
- ・しかし、年々生産者の減少に伴い、産地の維持が危ぶまれています。
- ・小面積からでも構いませんので、ズッキーニ栽培を始めてみませんか！
- ・初めての方には、JAや普及センター、部会員が栽培をサポートします！
- ・今年は、7月からの抑制栽培よりスタート可能です。



栗っこズッキーニキャラクター  
「クリッキーニョ」

### ◎栗っこズッキーニ栽培暦

		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
ハウス	春作抑制	●	●	▲	▲	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
露地	春作抑制			●	●	▲	▲	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

●播種 ○まき時 ▲定植 --- 植え付け期 ■収穫

### ◎栽培上の特徴

- ・栽培管理や出荷、収穫作業は簡易で、取り組みやすい。
- ・野生動物による食害等の被害は比較的少ない。
- ・露地栽培であれば、初期投資は低く抑えられる。
- ・確実に着果させるために、授粉作業orホルモン処理が必要。

### ◎露地春まき栽培の収益性(例)

10a収量	2,000kg	約700株
販売単価	300円/kg	JAズッキーニ部会を通じて出荷
売上	600千円	6月～8月の期間に出荷
主な経費		
資材費	104千円	種苗、農薬、肥料
出荷販売費	150千円	箱代、手数料、運賃
所得	346千円	

注) 上記金額は、あくまで目安であり、収量や市場単価、資材価格により増減が発生します。

### ◎お問合せ先

JA新みやぎ志波姫宮農センター 電話0228-25-3214  
宮城県栗原農業改良普及センター 電話0228-22-9404

## 高温に強い米づくりのポイント

令和5年は**登熟期間の高温等により白未熟粒の混入**がみられました。今年は高温に強い管理を徹底し、高品質米に仕上げましょう。

#### ①有効茎を確保する水管理

茎数・穂数が過剰となり、適正な籾数以上となることで、白未熟粒の発生につながります。分げつ期が平年より高温の場合は、深水管理を行う等、有効茎数を確保したら中干しを行うことで過剰な分げつの抑制が期待できます。

#### ②登熟を向上する水管理

出穂後は、保水管理（走水等により土壌を湿润状態に保つ水管理）を行いましょう。また、

落水時期を出穂後30日以降とすることで、白未熟粒発生の抑制が期待されます。

#### ③登熟を向上させる肥培管理

減数分裂期に追肥を行うことで葉色が維持され、登熟歩合が向上し、白未熟粒発生の軽減が期待できます。

#### ④適期刈取りの実践

出穂後の気温が高い場合、刈取り適期も早まります。出穂後の積算平均気温、籾の黄化度、籾水分等から総合的に判断し、適期刈取りに努めましょう。

乗用トラクター運転時にはシートベルトやヘルメットを着用し農作業安全を徹底しましょう。

## 有限会社川口グリーンセンターが日本農業賞大賞受賞！

第53回日本農業賞の個別経営の部で、栗原市の(有)川口グリーンセンターが大賞を受賞しました。写真は3月にNHKホールで行われた表彰式の様子です。

同社は「ふるさとを明るく元気に賑やかに」という方針のもと、中山間の水田地帯で約80haを耕作し、花きの生産や米粉パンの製造・販売、米

の通信販売や輸出など、米にこだわった多角的な経営を行っています。また、直売所は地域の「よるすや」となっており、交通が不便な地域で食と暮らしを支えています。このような、地域農業と経済の活性化、地域社会の維持に貢献する活動が高く評価されました。

この度は誠にありがとうございます！



【トロフィーを受け取る白鳥主任】



【インタビューを受ける白鳥代表】

## 宮城県農業大学校 令和7年度入校生募集のご案内

宮城県農業大学校は農業の近代化と経済社会の発展に対応できる、高度な知識・技術を身につけた優れた農業経営者と農村地域の指導者を育

成することを目的として、実践的教育を行う2年制の専修学校です。このたび、令和7年度入校生を下記のとおり募集しています。

- ①募集人員：55人（水田経営学部15人、園芸学部15人、畜産学部15人、アグリビジネス学部10人）
- ②受験資格：高等学校卒業生（令和7年3月卒業見込みの者を含む）またはこれと同等以上の学力があると認められ、本県農業の振興に貢献する意欲がある者

### ③入学試験の概要

試験区分	募集期間	試験日	試験科目
推薦入学試験 (学校長推薦) (地域推薦)※1	令和6年9月2日(月) ～9月13日(金)	令和6年10月1日(火)	○筆記試験 小論文 ○個人面接
一般入学試験 (前期)	令和6年11月5日(火) ～11月15日(金)	令和6年12月3日(火)	○筆記試験 国語総合 (古文・漢文除く)、 数学Ⅰ、 小論文 ○個人面接
一般入学試験 (後期)※2	令和7年1月20日(月) ～2月3日(月)	令和7年2月13日(木)	

※1 既卒者を対象とした推薦制度。卒業後、県内において認定農業者又は認定新規就農者を目指すか、認定農業者農業者の後継者で経を継承する意志がある者を普及センター所長等が推薦します。詳しくは普及センターにお問い合わせください。

※2 前期試験で募集定員を満した学部は、後期試験を行わない場合があります。

- ④お問い合わせ先：宮城県農業大学校 教務部 学生班・教務班 TEL：022-383-8138

